

令和 5 年 5 月 8 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02455

研究課題名(和文) 外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究

研究課題名(英文) Research on Mineitciro Adatci as Diplomat, International Legal Scholar and Judge

研究代表者

柳原 正治 (YANAGIHARA, MASAHARU)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：60143731

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：安達峰一郎について、これまでまったく手つかずであったメキシコ外交史料館所蔵の資料も含め、世界各地の図書館や史料館に存在する一次史料の収集を行うことができた。また、1917年11月から1年間駐ベルギー公使として使用した公使館・公邸「ヴィラ・レ・シレーヌ」がサンタドレス市に現存することを確認した(この点は同市の郷土史家の方々にも知られていなかった事実である)。さらに、安達の著作集として『世界万国の平和を期して』(東大出版会、2019年)と、安達峰一郎の足跡を手がかりとして、近代日本と戦争の関係を記した『帝国日本と不戦条約 外交官が見た国際法の限界と希望』(NHKブックス、2022年)を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

安達峰一郎について、世界各地に存在する一次史料の収集を踏まえて著作選(2019年)を出版できたことは、今後の安達研究にとってはなほ大きな学術的価値があるといえる。この著作選によって、外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達の全体像を浮かび上がらせることができた。

2022年12月に出版した『帝国日本と不戦条約 外交官が見た国際法の限界と希望』は、安達が国家自存と平和構築の狭間でいかに苦闘したかを描いた著作である。とくにロシアによるウクライナ侵攻という事態のなかで、一般の方々に、戦争と平和の関係をいかにとらえるべきかを歴史を踏まえつつ考察してもらうきっかけを与える著作となっている。

研究成果の概要(英文)： We succeeded in collecting historical materials on Mineitciro Adatci in various libraries and archives in the world including the diplomatic archives in Mexico. We found that Adatci's Legation in Sainte-Adresse from 1917 to 1918 exists still now, which is not known even to the local historians. "Peace Among All Nations: A Collection of Mineitciro Adatci's Writings" (Tokyo University Press, 2019) and "Modern Japan and the Briand-Kellogg Pact: Limits and Hope of International Law Seen by a Diplomat" (NHK Books, 2022) were published. The latter book describes the relation between wars conducted by Modern Japan and the Briand-Kellogg Treaty, based upon the perspectives of Adatci.

研究分野：国際法

キーワード：国際法 戦争 国際平和 安全保障

1. 研究開始当初の背景

安達峰一郎(1869-1934)の名前は、現在の一般の日本国民に、あるいは、国際法の専門家にさえも、それほど知られているわけではない。2012年11月から、「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」が4年間のプロジェクトとして発足した。これは二つの目的をもっていた。一つは、今世紀初頭より戦間期にかけての国際関係・国際政治及び国際法(理論)の展開について、思想史をも視野に入れて、統合的に研究することである。そして、もう一つの焦点は安達に置き、常設国際司法裁判所の開設、国際連盟の開設に至る議論、その後の運営等において安達が果たした役割、さらには安達の活動のバックボーンをなす彼の国際法理論について研究することであった。国際政治・外交史の研究者6名と国際法の研究者4名が参加した。本研究の研究代表者はこのプロジェクトの研究グループリーダーの一人である。その研究成果は、2017年3月に柳原正治・篠原初枝編『安達峰一郎 日本の外交官から世界の裁判官へ』(東京大学出版会)として刊行された。

海外での安達の研究としては、ヴァン・デ・ヴァレ(Van de Walle)教授のルーヴェン・カトリック大学図書館復興に関するもの、および、スピーアマン(Ole Spermann)教授による国際裁判に関するものなどが散見されるが、いずれも安達の全体像を示すものとはなっていなかった。

安達関連の書簡を集成したものとしては、1961年に安達の地元の山形県山辺町で設立された安達峰一郎博士顕彰会の多大な尽力により、『国際法にもとづく平和と正義を求めた安達峰一郎書簡を中心にして』(山辺町教育委員会、2011年)が発刊された。これは書簡を中心として141点の文書を収集した、画期的な史料である。今後の安達研究を推進するための原動力となるのはたしかである。ただ、安達は一日に20通ほどの書簡を書いていたといわれるほど(1927年の時点の水野錬太郎による)筆まめの人であった。現在残されている書簡だけでも膨大なものになる。

2. 研究の目的

本研究は、ときに「国際協調派外交官」と呼ばれることもある、安達峰一郎に焦点をあて、その業績を検討するものである。安達に関しては、その国際社会・日本外交における功績に比して、これまで学問的な研究は数多いとはいえない。安達は、外交官としてポーツマス会議に参加し、国際連盟設立後は理事会で重用され、また常設国際司法裁判所裁判官(就任当初から3年間所長)として活躍した。また、国際法に関する著作物も相当数残されている。本研究では、外交官、国際法学者、そして裁判官として多方面で活躍した安達の足跡を、国際法史と国際法学の観点から総合的に明らかにすることを目的とする。それはまた、日本と国際社会のかかわりを見直す現代的意義も持つ研究でもある。

3. 研究の方法

本研究は、山形大学のプロジェクトを引き継ぐという形で計画された。安達の活動は実に広範囲にわたっており、また、かれに関する一次史料は世界各地に点在しており、4年間のプロジェクトではなお十分に研究が尽くされたとはとうていいいえない。とくに一次史料の収集はなお相当に不十分なものととどまざるをえなかった。

本研究の第一番目の任務は、安達峰一郎に関する一次史料の収集・整理である。現在国会図書館・憲政資料室に所蔵される安達峰一郎文書(書類と書簡)には7000点近くの文書があり、

この全体像の分析が第一の課題である。また、東京都新宿区にある、(公財)安達峰一郎記念財団には未整理の文書がかなり存在する。さらに、外務省・外交史料館(アジア歴史資料センター)、海外には、ベルギー・外交史料館、フランス・外交史料館、オランダ・国立公文書館、米国議会図書館(ルート文書)のほか、オランダの国際司法裁判所図書室、ジュネーブの国際連盟文書館、ストックホルムの国立文書館(ハマースホルド文書)、ハーバード大学法学部図書館(ハドソン文書)、メキシコ外交史料館などの史料館・図書館には、実に多くの一次史料が所蔵されている。これらの一次史料を網羅的に収集し整理していくこととした。

これらの一次史料についての包括的な研究の上に、本研究は、外交官(外務省職員としての勤務も含む)、国際法学者、そして裁判官として多方面で活躍した安達の足跡を、国際法史と国際法学の観点から総合的に明らかにすることとした。安達は、一生涯を通じて、祖国・日本を、国際法を知悉しそして遵守する一等国とするために全力を尽くすとともに、戦争をなくし、紛争を平和的に解決するという、国際社会における正義と平和の実現を目指した。そうした検討のうえに、安達の国際組織観、国際法観の全体を明らかにすることとした。

4. 研究成果

本研究は、なによりも世界各地の一次史料の収集・整理のうえに、戦間期の国際協調派外交官と称されることもある安達峰一郎の全体像を明らかにするという点で、従来の研究と異なっている。多角的な観点から安達の国際社会観・国際法観を明らかにするという点でも独創的である。

具体的には、2019年5月に『世界万国の平和を期して 安達峰一郎著作選』(東京大学出版会)を刊行することができた。この著作は、公刊された学術論文や随筆のみならず、外交官として書き記した口上書や調書や報告書、捕獲審検所評定官としての調査書や判決、国際連盟や万国国際法学会での報告書、常設国際司法裁判所所長としての報告書や命令・勧告的意見に対する反対意見などをも収録している。さらには、特定のテーマについてはとくに重要とみなされる書簡も参考資料として収録した。各章の始めには各資料の簡単な解説を付した。また巻末には、国際法の観点および国際政治・外交史の観点からの解題論文二本(研究代表者と研究分担者の三牧聖子の執筆)を掲載した。この著作選によって、外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達の全体像を浮かび上がらせることができた。

安達は、1931年9月に勃発した満州事変、それに続く日本の国際連盟脱退通告のおりには常設国際司法裁判所所長として、その対処に苦慮した。冷戦が終わって20年以上が経った現在の国際社会も、正義と平和が実現されているとは到底いえない。戦間期にあって国際人、そして日本人として、日本のあり方に心を悩ませた安達の真相に迫ることは、現代の変転する国際社会において、日本がどのようなかたちで世界平和に貢献できるかという点を指し示すことを目指すという点で現代的な意義をも持つ研究である。とりわけ2022年2月24日に開始されたロシアの「特別軍事作戦」、ウクライナへの軍事侵攻、あるいは3月2日の国連総会決議によれば、ウクライナに対する「侵略」は、世界に大きな衝撃を与えた。第2次世界大戦後80年近く守られてきた国際法秩序の危機であるといえる。

こうしたなかで、国際法と過去の歴史についての正確な知識を持つことが現在とくに求められている。2022年12月に出版した『帝国日本と不戦条約 外交官が見た国際法の限界と希望』(NHKブックス)は、安達が国家自存と平和構築の狭間でいかに苦闘したかを描いた著作である。それは、戦間期の安達をはじめとする日本人の専門家や外国人の法律顧問、そして日本が味わった苦い経験や苦悩、さらには蹉跌を十分に理解した上で、日本と国際社会に平和をもたらすために、現行の国際法を守りつつも、必要な場合にはその国際法の改善と拡張を目指してなにをなす

べきかを熟考し、具体的な行動に移すことの大切さを強調した著作である。

さらにまた、1917年11月から1年間安達が駐ベルギー公使として使用した公使館・公邸「ヴィラ・レ・シレーヌ」がフランス・ルアーブル近郊の町サンタドレス市に現存すること（当時ブリュッセルはドイツ軍に占領されており、亡命ベルギー政府が同市に置かれていた）を確認できた。この点は同市の郷土史家の方々にも知られていなかった事実である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 柳原正治	4. 巻 710
2. 論文標題 「百巻の万国公法は数門の大砲に若かず」は今でも妥当するか？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 1,4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原正治	4. 巻 867
2. 論文標題 「安達峰一郎」（近現代史の人物史料情報・追加情報）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 93,95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原正治	4. 巻 562
2. 論文標題 世界万国の平和を期して - 安達峰一郎の遺したもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 21,25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山政己	4. 巻 70/71
2. 論文標題 国連狙い撃ち制裁レジームの国際公共的性格について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山形大学法政論叢	6. 最初と最後の頁 209, 240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 35
2. 論文標題 Non-Governmental Organizations and Origins of Asia-Pacific Regionalism - The Institute of Pacific Relations	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 55,70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 53(2)
2. 論文標題 ヨーロッパ知識人がみた知と権力 - ハンス・J・モーゲンソーとスタンリー・ホフマンのアメリカ知識人批判	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 99,118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 19
2. 論文標題 書評 井口治夫 『誤解された大統領 - フーヴァーと総合安全保障構想』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 103,108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山政己	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 国際組織の『事後の実行』再考 ILC結論草案を手がかりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 一橋法学	6. 最初と最後の頁 95, 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳原正治	4. 巻 535
2. 論文標題 よみがえる安達峰一郎	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 24,30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木俊哉	4. 巻 18
2. 論文標題 国連憲章とEU法の関係	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国連研究	6. 最初と最後の頁 35,51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木俊哉	4. 巻 89(10)
2. 論文標題 災害時の人の保護	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 58,62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山政己	4. 巻 6
2. 論文標題 国連安全保障理事会における『補完性原則』の可能性に関する覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際法研究	6. 最初と最後の頁 47,73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山政己	4. 巻 15
2. 論文標題 The NY Declaration for Refugees and Migrants Adopted by the UN General Assembly: Towards a New International Legal Framework?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Yamagata University Faculty of Humanities & Social Sciences Annual Research Report	6. 最初と最後の頁 171,184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 柳原正治
2. 発表標題 安達峰一郎の思想と行動 - 著作選を通して
3. 学会等名 安達峰一郎生誕150周年シンポジウム「よみがえる安達峰一郎 世界が称賛した国際人に学ぶ」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李禎之
2. 発表標題 国際裁判と安達峰一郎-裁判所規則改正の視点から
3. 学会等名 安達峰一郎生誕150周年シンポジウム「よみがえる安達峰一郎 世界が称賛した国際人に学ぶ」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 明石欽司
2. 発表標題 日本の国際法学-『継受』と『受容』を巡る二つの視点
3. 学会等名 国際法協会日本支部研究大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 大戦間期の戦争違法化と安達峰一郎
3. 学会等名 国際法協会日本支部研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Watershed? The Historical Evlution of American Internationalism and the Prospect
3. 学会等名 広島大学平和センター研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 明石欽司
2. 発表標題 戦争と国際法、そして法文化 - 日本における戦時国際法の受容と『対外発信』を題材として
3. 学会等名 法文化学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山政己
2. 発表標題 国連狙い撃ち制裁レジームの国際公共的性格 対テロ制裁を中心に
3. 学会等名 日本国際連合学会2018年度研究大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Jane Addams & Her Cosmopolitan Ethics
3. 学会等名 Symposium “The Living Legacy of First World War” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 East Asian Case
3. 学会等名 Symposium "The Role of Culture and Memory in International Relations: Japanese and Italian Perspectives" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李 禎之
2. 発表標題 南シナ海仲裁手続の訴訟法的含意
3. 学会等名 国際法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 アジアにおける「戦争違法化」の意味
3. 学会等名 グローバルガバナンス学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 リベラルな国際秩序とアメリカ
3. 学会等名 お茶の水大学ジェンダー研究所公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Bound to Lead? A Critical Examination of the US-led International Order
3. 学会等名 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター公開セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Toward Trans-generational Understanding of History
3. 学会等名 ソウル大学日本研究所 日本専門家セミナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 柳原正治	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 帝国日本と不戦条約－外交官が見た国際法の限界と希望	

1. 著者名 柳原正治（編）・三牧聖子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 511
3. 書名 世界万国の平和を期して 安達峰一郎著作選	

1. 著者名 芹田健太郎ほか（編）・植木俊哉ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 1060
3. 書名 実証の国際法学の継承－安藤仁介先生追悼	

1. 著者名 森肇志・岩月直樹（編）・李禎之ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 248
3. 書名 サブテキスト国際法－教科書の一步先へ	

1. 著者名 菅英輝（編）・三牧聖子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 競合する歴史認識と歴史和解	

1. 著者名 G. Martel(ed), Masaharu Yanagihara, Seiko Mimaki et al	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Wiley-Blackwel	5. 総ページ数 2092
3. 書名 The Encyclopedia of Diplomacy	

1. 著者名 岩沢雄司ほか(編)・植木俊哉ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 803
3. 書名 国際法のダイナミズム	

1. 著者名 明石欽司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 584
3. 書名 不可視の「国際法」－ホップズ・ライブニッツ・ルソーの可能性	

1. 著者名 Felix Rosch and Atsuko Watanabe (eds), Seiko Mimaki et al	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Rowman & Littlefield	5. 総ページ数 270
3. 書名 Modern Japanese Political Thought and International Relations	

1. 著者名 柳原正治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 244
3. 書名 変転する国際社会と国際法の機能	

1. 著者名 A.Roberts et al (eds), Masaharu Yanagihara et al	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 623
3. 書名 Comparative International Law	

1. 著者名 柳原正治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 220
3. 書名 法学入門	

1. 著者名 山本武彦・玉井雅隆（編者）・三牧聖子ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 330
3. 書名 現代国際関係学叢書(第1巻) 国際組織・国際制度	

1. 著者名 菅英輝・松井康弘・大矢根聡(編者)・三牧聖子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 278
3. 書名 グローバル・ガバナンス学I 理論・歴史・規範	

1. 著者名 松本悠子・久保文明・遠藤泰生(編者)・三牧聖子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 960
3. 書名 アメリカ文化事典	

1. 著者名 Seiko Mimaki Berber Bevernage, Nico Wouters(editors) et al.,	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave MacMillan	5. 総ページ数 879
3. 書名 The Palgrave Handbook of State-Sponsored History After 1945	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	植木 俊哉 (Ueki Toshiya) (00160151)	東北大学・法学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	明石 欽司 (Akashi Kinji) (00288242)	九州大学・法学研究院・教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩本 禎之(李禎之) (Iwamoto Sadayuki) (20405567)	岡山大学・社会文化科学研究科・教授 (15301)	
研究分担者	三牧 聖子 (Mimaki Seiko) (60579019)	同志社大学・大学院グローバル・スタディーズ研究科・准教授 (34310)	
研究分担者	丸山 政己 (Maruyama Masami) (70542025)	山形大学・人文社会科学部・准教授 (11501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関